

## 手野のため池にすむザリガニのひみつ2

天草市立本渡北小学校 4年 萩原 泰成

### 1 研究の目的

ぼくは1年生の時からザリガニを家で飼っている。去年の秋、メスが卵を生み、子ザリガニがたくさん生まれてその様子を観察することができた。そこで今年は去年の研究からでた疑問に加えてオスとメスの関係についても知りたいと思い引き続きザリガニについて研究することにした。

### 2 研究の方法とわかったこと

研究(1) ザリガニが卵からかえり、1年間育つまでの観察・記録

去年の夏休みが終わる頃、オスとメスを同じ水そうに入れ、9月19日、メスのはらに卵を見つけ、それから1年間、観察記録を続けた。

○ザリガニは秋に卵を生み、卵からかえった子ザリガニは1年かけて2mmの卵から、約6cmにまで脱皮を繰り返しながら成長することがわかった。

研究(2) 性別がちがうザリガニのなわばりやえさの取り方について

衣装ケース（縦37cm×横73cm×深さ12cm）にすみかを作り、メス中、メス大、オス大の順に入れて行動を観察・記録した。エサの取り方は衣装ケースにメス大とオス大を入れ、青糸でマス目ができるように区切り、1マス毎にエサを入れてどのザリガニが食べるかを記録した。調べる時期をかえ、7月、8月、9月に行った。

○オスとメスの関係はオスが強かった。時期によってオスはメスを追い回したり、メスは食欲旺盛になったりすることから、なわばりやエサ取りの関係に違いが出た。

研究(3) 池のザリガニがよく活動するのは何の関係しているか

池で見られたザリガニの数、その時の水温、照度を測り、記録して調べた。（8月、9月）

○池のザリガニが活発になるのは8月で、9月になり水温が2～3度違うだけで、見られるザリガニの数が違うことが分かった。ザリガニの活動には水温が大きく関係することが分かった。照度は低くてもザリガニが多くみられた時もあり関係性は低い。

研究(4) ザリガニはどのようにエサをさがすのか、目か、においかについて調べる。

水槽のザリガニに、エサをそのまま与える時と、においを感じないように蓋のできるキャップにエサをいれて与える時、ザリガニがどんな反応をするか、観察・記録した。暗やみボックスを使って薄暗い環境もつくって試した。

○ザリガニは暗い所でもエサを見つけることができることがわかった。よく見え、においもあるとエサを見つけるのが速いことがわかった。

研究(5) ザリガニの後ろとびオリンピック

大中小のザリガニを家庭用プールに入れ、後ろにはねる長さを記録した。

○大中小のザリガニの内、はねる力が大きいのは中位のザリガニであることがわかった。

### 3 研究のまとめと感想

去年卵からかえった子ザリガニを飼育するうち、今年はメスとオスの関係に焦点をあてて研究しようと考えた。研究結果から、ザリガニは温度によって行動が変化し、季節を敏感に感じて命を繋ぐ営みをしていることが分かった。研究を通してザリガニの生命力を感じる事ができた。